

[成果情報名] トラフグ種苗の鰭切除標識の持続状況

[要 約] トラフグ種苗に鰭切除標識を施し、その持続状況を飼育により確認したところ、持続していたのは36.4～50.0%であり、それ以外は鰭の乱れとなって確認された。

[部 署] 山形県水産試験場・浅海増殖部

[連絡先] 0235-33-3150

[成果区分] 研

[キーワード] トラフグ、標識

---

#### [背景・ねらい]

近年、本県沿岸でもトラフグが漁獲されるようになってきており、2007年度からは漁業者団体が主体となってトラフグの種苗放流を進めてきた。その際、放流魚の一部には鰭切り標識を施してきたが、放流効果をより正確に把握するため、標識の持続状況を把握しておく必要がある。

#### [成果の内容・特徴]

1. 新魚種生産棟に設置した2トン水槽内に、野菜籠（内寸42cm×30cm×14cm）を間仕切りで6室に分けた容器を設置し、2016年9月2日に各室に1尾のトラフグ当歳魚（平均体長72.4mm）を計36尾収容した。野菜籠の間仕切りは、成長の早い個体に合わせて、途中から一斉に3室に変更した。
2. 供試魚収容時に尾鰭の一部を解剖用ハサミで切除する標識を施した。尾鰭上部切除、尾鰭中部切除、尾鰭下部切除の標識を各12尾に施し、各試験区とした。
3. 収容から約1か月ごとに11月30日まで全個体の体長を測定した。また、最終日には標識の持続状況のほか、口髭状の黒色素沈着（通称「ひげ」）の有無、鼻孔隔皮の欠損の有無についても、全ての個体について確認した。
4. 各試験区に成長差は見られなかった（図1）。3試験区合計で33尾生残し、生残率は91.7%であった。
5. 各区に施した標識の持続状況を確認したところ、標識持続率は、36.4～50.0%であった。それ以外の個体については、鰭の乱れが確認された（表1、図2）。
6. 標識以外の特徴の発現状況を確認したところ、生残した全33尾中、鼻孔隔皮欠損が1尾、口髭状黒色素沈着が1尾確認された（表2、図3、4）。

#### [成果の活用面・留意点]

1. 放流効果を判定する際に活用できる。
2. 最初に標識を施す際の手技が重要と考えられる。

[具体的なデータ]

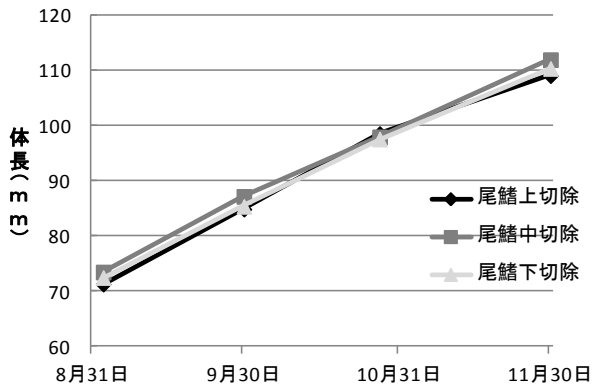


図1 各試験区の成長

表1 各試験区の標識持続状況

標識箇所	尾緒上	尾緒中	尾緒下
標識どおり(A)	4	5	5
乱れ(B)	7	7	5
標識持続率(%) A/(A+B) × 100	36.4	41.7	50.0

表2 標識以外の特徴発現状況

	尾数	発現率(%)
鼻孔隔皮欠損	1	3.0
口髭状の黑色素沈着	1	3.0

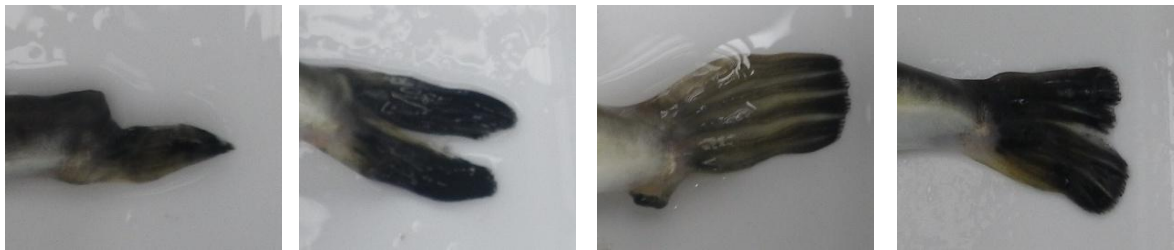


図2 尾緒切除標識の持続状況  
(切除部位は左から、上部、中部、下部。右端は上部切除魚の乱れの例。)

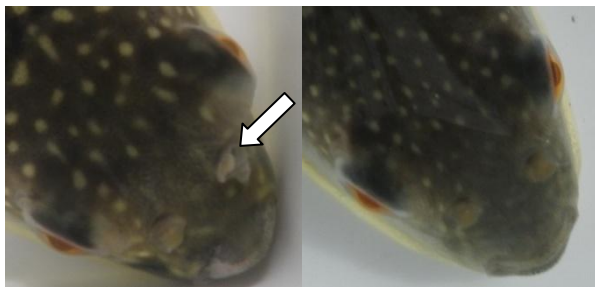


図3 鼻孔隔皮欠損の発現状況  
(矢印部。右は正常魚)



図4 口髭状黑色素沈着の発現状況  
(矢印部。右は正常魚)

[その他]

研究課題名：栽培新魚種の種苗生産と放流に関する研究

予算区分：県単

研究期間：平成28年度（平成24～28年度）

研究担当者：高橋伸明

発表論文等：